

「モノづくり」医療に生かせ

名古屋商工会議所が、モノづくりの技術を生かし、医療現場のニーズに応える医療機器の開発を目指す「医工連携」に取り組んでいる。両者の出会いの場として「メディカルメッセ」を開催するほか、医療補助具の試作品も完成し、関係者は自動車や航空機に続く産業に育てたいと意気込んでいる。(白石巨)



▶ X線撮影補助機
あご関節固定具 ▶



名商 医工連携、試作品が完成

来月、メッセ開催
現在、同病院で試行的に使
っており、「撮影時間が短く
なり、撮り直しもなくなっ
た」と担当医師。アークの大
森清一マネージャーは「工業
界のノウハウを生かせば、医
療現場のニーズを解決でき
る」といい、販路などの検討
を進める。第二回のメッセは
二月三、四の両日に名古屋市

千種区の吹上ホールで開かれ
る。
あごの関節が外れやすい病
気の人が、関節を固定するの
に使う器具「AGOキャップ」
の試作品を開発したのは、中
小企業の旭ゴム化工(名古屋
市)。名商の仲介で口腔外科
が専門の愛知学院大歯学部
(同市)の栗田賢一教授らの
グループと取り組んだ。
ヘッドギアのような形をし
た帽子にゴムバンドがついて
おり、耳の近くの面ファスナ
ーにゴムバンドを張れば一人
で簡単に装着できる。ゴムバ
ンドは、ウエットスーツなど
に使う素材を二重にしてお
り、十分な強度を確保。ゴム
バンドを面ファスナーに張る
位置を上下させれば、あごを
固定する強弱を調整できる。
あごの関節を固定する器具
は以前からあるが、一人で装
着しにくく、固定する力が弱
い難点があった。近く患者を
対象にした臨床試験を始める
予定で、厚生労働省から医療
器具の承認を取り付けた上
で、販売にこぎ着けたい考え
だ。
旭ゴム化工は現在、売り上
げの五割は自動車向けが占め
るが、林雅洋社長は「仕事の
幅を広げるため医療関係に力
を入れたい」と話している。

「先進医療 成果出す」



東海メディカル・筒井会長

「医工連携」旗振り役

名商が取り組む「医工連携」の旗
振り役を務めてきた医療機器メー
カー、東海メディカルプロダクツ(愛
知県春日井市)の筒井宣政会長は
「まず技術的にやさしい分野で実績
をつくり、最先端の高度先進医療で
成果を出したい」と語る。

日本では、医療機器は輸出より輸
入が多い「輸入超過」の状態が続い
ている。特に治療などで体内に入れ
て使う医療機器はリスクがあり、参
入企業が少ないからだ。

ただ、高齢化による需要増で、国
内の医療機器市場は右肩上がり推

移している。筒井氏は「政府も輸入
超過を解消し、輸出で稼げる産業に
しようとしている。中部に集積する
モノづくりの技術を生かしたい」と
語る。

中部企業の間でも、2008年のリー
マン・ショックで自動車などの仕事
が急激に落ち込んだ経験から、「特
定分野への依存度を減らそうと、医
療に目を向ける経営者が増えた。高
い品質や安全性が求められる医療分
野は、自動車や航空機と重なる部分
が多い」といい、新規参入が増える
のを期待する。